

< 特集 日高市 >

緊急総力特集 連続配信 第5弾!

## 太陽光発電事業の壊滅を強行する、

### 日高市・谷ヶ崎照雄市長の闇!

埼玉県日高市で異常事態が起きている。

日高市高麗本郷地区の山林に建設予定の太陽光発電所事業が、谷ヶ崎照雄日高市長と数名の反対住民と市議会議員らによって、中止に追い込まれようとしている。現在、大規模な太陽光発電事業（いわゆる、メガソーラー事業）は、無責任な事業者による転売目的の乱開発が問題視されるケースもあり、事業地の市民らの反対運動や施政方針としての事業計画の見直しや中止を求められることはあり得る。

ところが、日高市の本件では事情が違うようだ。本紙が現地取材したところ、想像を絶する日高市長・谷ヶ崎照雄氏の不透明かつ異常な行政の実態が浮かび上がってきた。



### なにを聞いても「是正指導をしております」 違法市民をとことん擁護する谷ヶ崎市長の「異常市政」!

本紙で告発報道した通り、「高麗本郷メガソーラー問題を考える会」（以下「考える会」）の代表・上野文康氏が経営する「Cafe 日月堂」（日高市高麗本郷 729-1）は、都市計画法に反した店舗であり、浄化槽も住宅用の設備しかない違反状態。

さらに店舗駐車場は他人の農地を転用せずに利用し、その一部は日高市の市有地を15年にわたって不法占有している始末であった。

本件について本紙はすでに日高市の都市計画課・建設課・環境課の担当職員にそれぞれ言及し、市も上野氏の違法状況を認めたくて「**是正措置を取る**」旨の回答を示していた。去る8月5日のことである。その2週間後の8月19日、本紙は再び都市計画課を訪ね、上野氏の違反事案に対する市の「**是正**」の現況を聞いた。すると、都市計画課は「**是正指導をしております**」と繰り返すばかりで具体的な内容については「**個人情報ですので**」と回答を拒否する。

メガソーラー事業計画「**反対派リーダー**」としての上野氏の要望には、わずか2日で対応し、谷ヶ崎市長自ら上野氏と共に新聞記事に登場する素早さに比して、上野氏の違法行為という不都合には市役所が総力を挙げて擁護しているも同然の異常な状況が続いているようだ。

既報の通り、そもそも担当課は本紙よりも先に別の人物からの問い合わせによって7月初旬には上野氏の違法店舗について情報を得ており、それから起算すれば、およそ2か月間も事実上の放置。

「Cafe 日月堂」のFacebookなどによれば「**お盆休みも営業中**」との、盗人猛々しい営業を続けている。

本件上野氏の違法行為が、これほどまでに許されるという事実から言えば、日高市では、誰でも都市計画法に反して店舗を経営し、10数年にわたって市の土地を不法占有しても容認されるということだ。土地を不法占拠したい全国の諸氏は、ぜひとも日高市に転居するべきである。

## **市役所に「相談」に来ていた上野氏！ だが、担当課は「見ざる、言わざる、聞かざる」 これが公に資する市政の職務なのか？！**

本紙が担当課に「**上野氏は役所に来て話をしているのか？**」と尋ねると「**いや…あの…個人情報になりますので…**」としか答えられない職員たち。だが、本紙取材班は上野氏が市役所を訪れている事実を把握している。担当課が上野氏の来庁を知らないはずがない。

谷ヶ崎市長が、上野氏の違法行為については可能な限り時間稼ぎをして、問題が表面化しないよう、姑息にしてあからさまな命令を市職員らに発しているであろうことは想像して余りある。

一方で、懸案の開発事業地区である高麗本郷賛成住民らの要望に対して、日高市はいつまで経っても回答さえ示さず、幼稚を乗り越した谷ヶ崎市長の「意地」だけで、条例可決さえすれば勝ちだとおごり高ぶっている様相である。

これだけ明白に谷ヶ崎市長に擁護される上野氏の受け売りでしかない根拠を援用したに過ぎない保守派市議らは、いよいよ明日8月22日には、太陽光発電事業の規制条例を強行採決しようとしているらしい。

## 本紙郵便物を「受取拒否」の、8人の市議たち！

ところで本紙は日高市議各位にも、本件問題（上野氏や松尾まよか市議の問題、条例化の強行採決など）について、市議としての見解を問う取材質問書を送付していたが、このうち8名の市議が「受取拒否」、本紙に返送されてきた。受取拒否の市議は次の8名である。

- ✓和田貴弘 市議 （議席番号1）
- ✓加藤大輔 市議 （議席番号4）
- ✓鈴木健夫 市議 （議席番号6）
- ✓山田一繁 市議 （議長：議席番号11）
- ✓大川戸岩夫 市議 （議席番号12）
- ✓森崎成喜 市議 （議席番号13）
- ✓橋本利弘 市議 （議席番号14）
- ✓吉本新司 市議 （議席番号15）

強い意志の表れなのか、本件問題の端緒となった公明党・鈴木健夫市議と吉本新司市議に至っては「受取拒絶」という自署の付箋がついている（もしくは郵便局員が書いたものだろうか？鈴木市議・吉本市議、お答え下さい）。本紙が送った封書の表面に「質問書在中」と書いてあるわけではないから、質問の回答に窮するから受け取らないという理由ではないだろう。

内容を見るまでもなく、初めから本紙の存在を「**完全否定**」したいということだろうか？

彼らが、このような対応をする理由はなにか？

「**行政調査新聞**」など、あずかり知らない差出人の不審な郵便物を受け取る義務などないということだろうか？

いや、彼らは少なくとも、本件問題の調査報道を通じて本紙の存在を嫌でも承知しているはずだ。ということは「**受取拒否**」の名のもとに、疑義を問われることから「**逃げています**」だけのことではないか？

自ら本紙の通信を拒否しているのだから、どのように想像されても文句は言えまい。

本紙は日高市民ではないものの、日本国民でありすべての政治家に疑義を問う権利を有している。上記8名は保守派である。本件問題の条例化の強行採決に向けて、谷ヶ崎市長への忖度（そんたく）と共に、いかに自己保身を死守するかという葛藤の只中にあるのかもしれない。

また「**誰が突いて来ようが知ったことではない**」と民意不在の条例可決に揺るぎない自信を持っているのか。いずれにしても、明日8月22日の日高市臨時議会は「**審判の日**」だ。16名の日高市議の誰が、市民を無視黙殺する谷ヶ崎独裁政権の傀儡（かいらい）で、誰が公に資する真の政治家なのかが明らかとなるからだ。

今回は8月22日「**日高市臨時議会の全容**」をお伝えする。